

I 社会 研究テーマ

自らの学習状況を見つめながら、主体的・協働的に学習問題の解決に取り組む子どもを育む学び

II 研究の重点

自分の考えを練り上げていく力を高めるための学びのデザイン

III 3年次の成果と課題

1 成果

(1) 重点1つ目の社会的事象について、多角的に考察し、自分の考えや意見を定めるための手立てに関わって

日常生活や地元秋田に関わる資料、社会的事象の活用を通して、子どもの興味・関心を引き出し、そこから課題をもつことによって問いの解決に向けて追究していく授業デザインの工夫ができた。子どもたち一人一人が自己の課題を解決し、広い視野から多角的に考察して自分の考えや意見を決定する姿が見られた。

5年『食料問題解決ゲーム』をつくらう！～これからの食料生産とわたしたち～では、主産地ブラジルでのオレンジの不作により世界中のオレンジ果汁が品薄になっていることと、国内販売大手Aグループでは輸入オレンジではなく国産みかんを使ったジュースの販売をしていることを資料として提示した。この社会的事象から、地球の裏側の出来事が自分の食卓にもつながっていることに衝撃を受け、食料自給率や食品の輸出入との関連に目を向ける子どもの姿が多く見られた。さらにはその解決策として国産みかんを活用する工夫に興味・関心をもち、食料問題の解決に向けた解決策について追究するきっかけとすることができた。このように原因・現状・解決策を関連付けて説明し、様々な食料問題への意見をもつことができた。

6年「歴史調査～秋田の戊辰戦争とは！？～」では、本校6年生が修学旅行で訪れる函館とふるさと秋田の「戊辰戦争」でのつながりに気付くことから単元の学習が展開されるように、秋田市の身近な場所にある秋田の戊辰戦争戦死者の墓や碑の写真資料や新聞記事を提示した。また、秋田の戊辰戦争に関わるものや人に直接触れ、観察や聞き取りを通して情報を集めることができるように、秋田市八橋全良寺にある戊辰戦争戦死者の墓に刻まれた文字を読み取る野外調査活動や官修墓地を守ってきた全良寺住職の講話を聞く活動を設定した。観察や聞き取りを通して秋田の戊辰戦争に関わるものや人に直接触れる機会を得たことで秋田の戊辰戦争が自分事となり、そのことを学ぶ切実感が子どもたちに生まれていた。このことにより、問題意識をもちながら、その問いを解決しようと本気になって追究していく姿が見られた。

このことから、子どもが意欲的に向き合える身近な資料や社会的事象を基に、一人一人が追究したい課題をもって取り組んだことによって多角的に事象を捉えることにつながり、課題に対する自分の考えや意見をもつために有効であったと考える。

(2) 重点2つ目の必要感のある省察につながる情報交換の場を設定するに関わる成果

自分の考えや意見をもった上で、追究したい課題が異なる仲間と情報交換をし、互いの考えを関連付けて自分の考えを補強したり、自分にはなかった新たな考えを取り入れたりすることができるよう学習過程を構想した。

5年『食料問題解決ゲーム』をつくらう！～これからの食料生産とわたしたち～では、様々な食料問題についての原因と現状を各自が調べ上げ、その解決策について考えをもつために、ペアやグループ、他グループの仲間にも意見を求めたり情報交換をしたりする場面を自由にもたせた。解決策には、現状の改善、原因の追及、一つ先の未来に向けた解決策などが考えられ、情報交換をする中で自分の考えを整理したり、新たな課題を問い直したりしていく姿が見られた。また、そのようにしてつくられたゲームを互いに試し合うことも情報交換の場となり、広く社会的事象を見つめていく機会ともなった。

6年「歴史調査～秋田の戊辰戦争とは！？～」では、聞き取り調査や文献調査で分かった事実について自分なりに意味付けをすることができるように、秋田の戊辰戦争を象徴するベスト3を整理し、話し合う活動を設定した。このことが例えば、「下級藩士の思いが藩主を動かしたことにより奥羽越列藩同盟を脱け明治新政府側で戦うことになった秋田藩の決断に重きを置く」という友達の考えを取り入れるなど、仲間との情報交換を通して自分の考えを見つめ直すことにつながった。さらに、自分の考えを補強したり新たな視点を取り入れたりするなど、その頃の世の中の様子について歴史認識を深める姿が見られた。

自分の考えをまとめた上で、課題や視点が異なる仲間と情報交換をする場を設定したことは、必要感のある協働的な省察を生み出し、社会的事象の意味について視点を関連付けて考える姿を引き出すことにつながったと考える。

2 課題 個の考えをつなぎ、協働で深め合っていく過程を大切に授業構想

個別の課題を追究する学びと協働で情報交換や話し合いを進めていく学習活動の往還が効果的に行われる学習になるよう、学習全体を支える資料や学習方略の精選をし、子ども自身が問題解決のために自らの学習状況を見つめ、考えを深める姿を引き出すための授業構想を模索したい。